

4. 平成 23 年度国内企業調査報告

4.1 福岡企業調査報告

(1)訪問企業：株式会社はせがわ

(2)調査期間：2011年8月5日～2011年8月7日

(3)調査メンバー：小椋康宏(センター長)、清水健太(研究支援者)

本研究センターの統一テーマ「日本発経営力の創成と『新・日本流』経営者・管理者教育の研究」の調査を行うために、株式会社はせがわ代表取締役会長、長谷川裕一様へのインタビュー調査を行った。

今回のインタビュー調査では、昨年度に本研究センターで行った新日本流経営に関するアンケート調査の内容と関連して、経営理念などを中心にインタビューを行った。長谷川会長の経営理念は、「誠実であること」を経営の中心的な概念においているということであった。株式会社はせがわが、個人商店から大企業に発展する過程や、特に日本企業からグローバル企業に発展する過程で、様々な困難に直面したことに関する話を伺った。ただ、長谷川会長はそのような困難に直面した経験などから、企業経営において「誠実であること」という経営理念が最も大事だと感じたということであった。近年、グローバル化により海外進出した日本企業が、様々なカントリートリスクから被害を受ける事例を聞く機会がある。しかし、長谷川会長はそのようなリスク理解したうえで、それでも企業として「誠実であること」を選択することが消費者から信頼を集め、企業価値を創造するうえで必要なことであると指摘されていた。同社の大きな成長の背景には、このような経営理念が消費者の厚い信頼を勝ちとったことも要因の一つであるのではないかと感じた。

また、8月6日～7日にかけては、経営行動研究学会の全国大会に参加し、経営学者と研究交流を行った。

(文責：清水健太)

4.2 名古屋企業調査報告

- (1)訪問企業：日本ガイシ（株）、ノリタケの森
- (2)調査期間：2011年10月16日～2011年10月17日
- (3)調査メンバー：小椋康宏(センター長)、幸田浩文(プロジェクト・サブリーダー)、中村久人(研究員)、石井晴夫(研究員)

愛知県における製造企業の競争力の調査を行うために、日本ガイシ(株)とノリタケの森を訪問した。

日本ガイシ(株)の愛知県の事業所では、大型セラミックに関連した事業を視察した。同社は、大型セラミックに関連した事業において、高い競争力を持っている。このたびの工場視察では、原材料購入から製膜完成までの一連の「製膜メカニズム」についての一連の製造プロセスを通じて、日本ガイシ株式会社の製膜技術を通じた経営力の源泉を知ることができた。同社はこの製膜技術を有効活用することにより、汚水をきれいな水に変えることに成功し、社会に大きな貢献をしている。同社の技術は、東日本大震災の被災地においても活躍しており、その高い技術力は国内外に問わず、高い評価を得ていることがわかった。本企業調査においては同社の競争力の源泉を知ることができ、有意義なものとなった。

ノリタケの森では、前身である日本陶器合名会社からの同社の高い技術力の源泉を知ることができた。

(文責：小椋康宏)